

# Ciena (CIEN) 投資戦略レポート - 最強決算と織り込み過剰の分岐

CIEN

FY2026 Q2 は売上 +39.5%・通期ガイダンス 63 億ドルへ上方修正の最強決算だったが、株価は翌日 -13.66% 急落。逆 DCF が示す織り込み過剰（永久成長率 12% 相当）とフォワード基準の目標株価 456.50 ドルから、判定は Watch。短期スイングは押し目買い目線を併記。

米国株

AIインフラ

光通信

高成長

公開日 2026-06-06  
著者 Investment Research  
分析モデル Claude Opus 4.8 (1M context)

[investment.kekke-developer.com](https://investment.kekke-developer.com)

本レポートは特定の有価証券・金融商品の売買を勧誘・推奨するものではありません。投資判断は読者ご自身の責任において行ってください。詳細は本文末尾の免責事項をご参照ください。

## Ciena (CIEN) — 最強の決算と織り込み過剰のせめぎ合いで Watch

作成日

2026-06-05

株価・配当基準日

2026-06-04 NY 終値 535.63 ドル

対象銘柄

CIEN / Ciena Corporation — NYSE・光ネット  
ワーキング機器

結論

総合判定 Watch / 目標株価 456.50 ドル /  
損切りライン —・ポジション非取得 / 6~12  
か月。短期スイングは押し目買い目線を併記

データソース

SEC EDGAR・企業 IR・Yahoo Finance・  
Dell'Oro Group・FRB・FRED・米財務省・  
Federal Register

レポート概要

FY2026 第 2 四半期決算は売上 +39.5% で通期 63 億ドルへ上方修正と最強の内容だったが、株価は翌日 -13.66% 急落した。本レポートは AI クラウド DCI 需要の構造性と、株価が織り込む過剰な成長前提の正面衝突として Ciena を分析し、買って良い水準と再評価の条件を特定する。

分析モデル

Claude Opus 4.8 (1M context)

本資料は情報提供のみを目的とし、投資勧誘・投資助言を行うものではありません。投資判断は読者ご自身の責任で行ってください。

売上 +39.5% の最強決算でも株価は 13.66% 急落 — 期待がどこまで積み上がっているかを逆算し、買って良い水準を特定します。

## 0. 結論

この章で見えてくること

Ciena の投資判断 (Watch) と、その根拠となる 7 個の論点を先に示します。事業は過去最高水準の追い風にありますが、株価はそれを大きく先取りしています。詳細は § 2 以降の各章で検証します。

## 長期見通し

WATCH

確信度 中

目標株価

456.50

想定保有

6~12か月

事業は最強局面だが株価は長期の高成長を先取りしており、456ドル近辺への調整を待つ局面

## スイング見通し

押し目買い

※2026-06-04 時点

決算ギャップ後の25MA下押し目 + 週足上昇トレンド継続

### 業績モメンタム — 決算は文句なしの最強局面です

FY2026 第2四半期の売上は 15.71 億ドル (+39.5% YoY) **A** と、光ネットワーク企業としては異例の加速を見せました。さらに 通期売上ガイダンスは 63 億ドル ±1 億 (中央値 +32%) へ 2 四半期連続で上方修正 **A** されています。そのため、事業の勢いそのものに疑問の余地はほとんどありません。

### 株価とバリュエーション — 良い決算でも売られる水準まで期待が積み上がっています

ところが株価は決算翌日の 2026 年 6 月 4 日に -13.66% の急落 **A** となり、終値は 535.63 ドル **A** まで調整しました。現在の株価は 永久成長率 12.08% の織り込み **A** に相当し、成長ストーリーを前提にしたフォワード基準の目標株価 456.50 ドル **A** すら現値を下回ります。つまり「会社は強いが、株価はもっと強い前提で値付けされている」状態です。

### 構造リスク — 集中・競争・マクロの 3 方向から逆風が同時進行しています

リスクは分散しておらず、以下が同時並行で進んでいる点にご注意ください。

- クラウド大手への顧客集中（上位 5 顧客で売上の約半分、§ 9 で詳述）
- Nokia の Infinera 統合による同規模競合の出現と、CPO（co-packaged optics、光と半導体を同一パッケージに統合する次世代技術）による中流価値の侵食（§ 3）
- FOMC の利上げバイアスとベータ 2.4 が増幅するマルチプル収縮（§ 6）
- 米国売上 72% × 海外製造の関税エクスポージャー（§ 6）

### 判定 — Watch（確信度: 中）

論点「AI クラウド DCI 需要の構造的拡大」は positive で確信度も高い一方、論点「逆 DCF が示す織り込み過剰」が negative で正面からぶつかります。決定打となる論点「粗利率 45% 攻防 — 価格決定力と供給制約の綱引き」の帰趨は次の四半期決算まで確率的にしか読めません。したがって、新規の長期エントリーは 456 ドル近辺への調整を待つ Watch が妥当と考えられます。

#### この章のまとめ

- 判定: Watch (確信度: 中)、目標株価はフォワード基準で 456.50 ドル (現値比 -14.8%)
- 事業モメンタム (売上 +39.5%・連続上方修正) と織り込み過剰 (永久成長率 12% 相当) が正面衝突
- 短期スイングは別判断であり、§ 7 で売買プランを整理、論点の総合検証は § 10 で行います

#### 目次

0. 結論
1. 銘柄の現在地
2. 業績 — AI クラウド DCI 需要の構造的拡大
3. 業界・競合 — Nokia 統合と CPO 侵食、競争優位の防衛戦
4. バリュエーション — 逆 DCF が示す織り込み過剰
5. マネジメント・ガバナンス — 25 年 CEO 体制の実行力と CFO 交代の過渡期
6. マクロ・ニュースフロー
7. テクニカル・需給とスイング戦略
8. シナリオ・反証・モニタリング KPI
9. リスク・カタリスト
10. 投資判断
11. 用語集
12. 参考資料

## 1. 銘柄の現在地

#### この章で見えてくること

§ 0 結論で示した投資判断の前提となる Ciena の事業構造、株価水準、財務健全性をまとめて確認します。論点「AI クラウド DCI 需要の構造的拡大」の土台となる事業セグメント構成も併せて見ます。

Ciena は米メリーランド州に本社を置く光ネットワーク機器・ソフトウェアの専門大手です。データセンター同士や通信キャリアの基幹網を結ぶ「光トランスポート」装置を主力とし、FY2025 の総売上は 47.70 億ドル **A** に達しました。例えるなら、AI データセンターという巨大な工場群をつなぐ「高速道路の建設会社」であり、クラウド各社がデータセンターを増やすほど道路の需要が増える構図です。

事業の中核である光ネットワーク売上は 32.46 億ドル (+22.8% YoY) **A** と全社の約 7 割を占めます。Networking Platforms セグメントが売上の約 8 割を占め、残りをソフトウェアと保守サービスが支える構成です。そのため、本レポートの分析も光ハードウェアの競争力と需要持続性に焦点を当てます。

株価 (6/4 終値)

**535.6 USD** **A**

実績 PER

**178.5倍**

予想 PER

**64.5倍**

52 週高値

**637.5 USD**

52 週安値

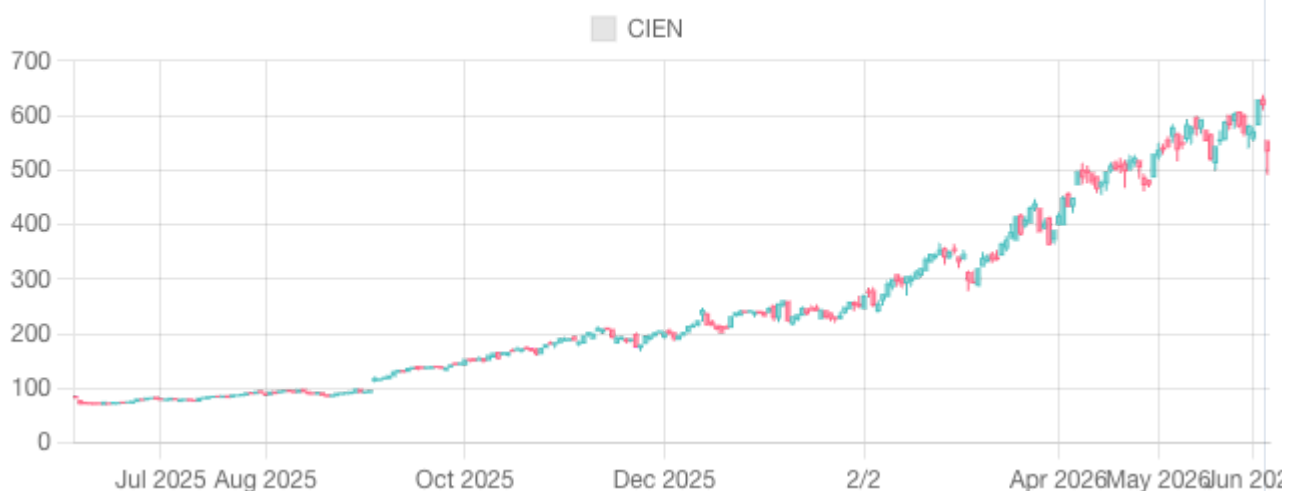
**70.77 USD**

予想 EV/SALES

**12.1倍**

株価面では、この 1 年が極端でした。1 年相対リターンは S&P 500 を 512pt 上回る +538% **A** と AI インフラ相場の代表的な勝者となり、決算急落後でも 52 週レンジ内位置は 82% **A**、ピーク終値からのドロウダウンは -14.6% **A** にとどまります。つまり、急落といってもまだ高値圏の調整に過ぎません。

株価 1 年推移 (日次)



財務健全性は 100 点満点で 76 点 (B 評価、テックハードウェア業種基準) です。自己資本比率や手元流動性は安定しており、急成長企業にありがちな財務の脆さは見当たりません。したがって、本銘柄の評価軸は「財務リスク」ではなく「成長期待の織り込み度合い」に集

中します。

#### この章のまとめ

- 光ネットワーク専業で総売上 47.70 億ドル、光事業はオーガニックに +22.8% 成長
- 1年で S&P 500 を 512pt 上回る +538% 上昇、急落後も 52 週レンジの 82% 位置と高値圏
- 財務健全性 76 点/B で財務不安は小さく、§ 2 業績では成長の中身と持続性を深掘りします

## 2. 業績 — AI クラウド DCI 需要の構造的拡大

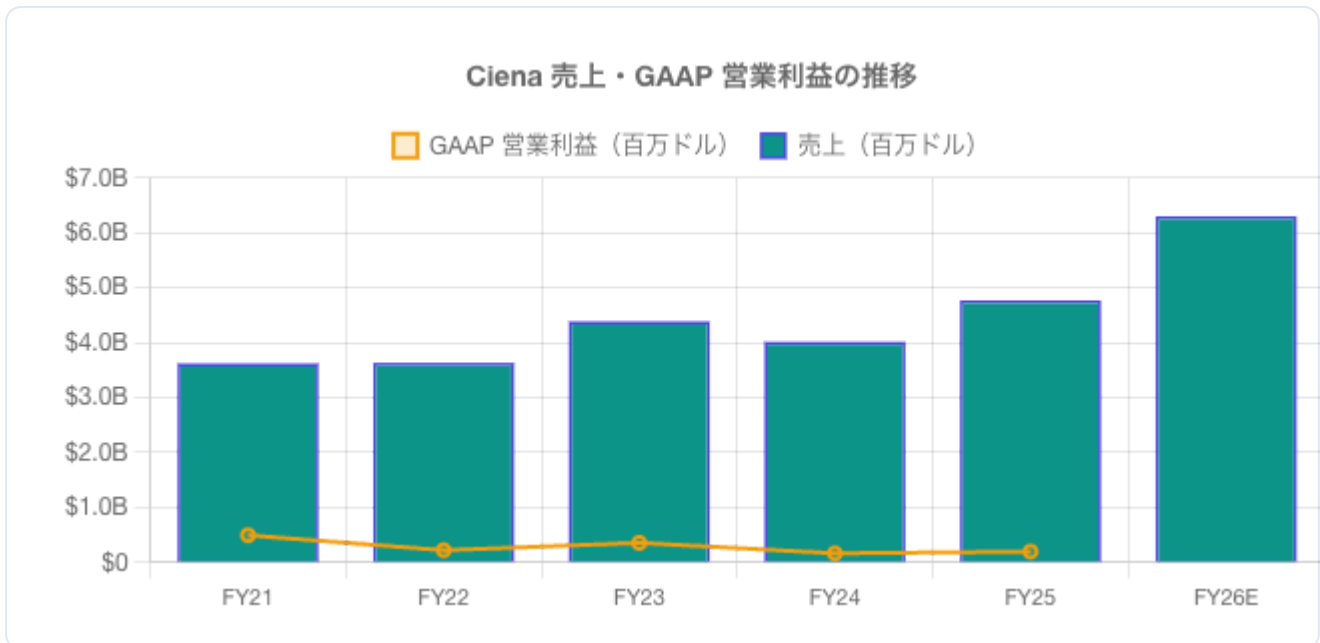
#### この章で見えてくること

§ 1 で確認した「高速道路の建設会社」の受注がどれほど強いかを、§ 0 結論で示唆した論点「AI クラウド DCI 需要の構造的拡大」と論点「粗利率 45% 攻防 — 価格決定力と供給制約の綱引き」の両面から掘り下げます。

### 2.1 土台の財務と直近四半期の加速

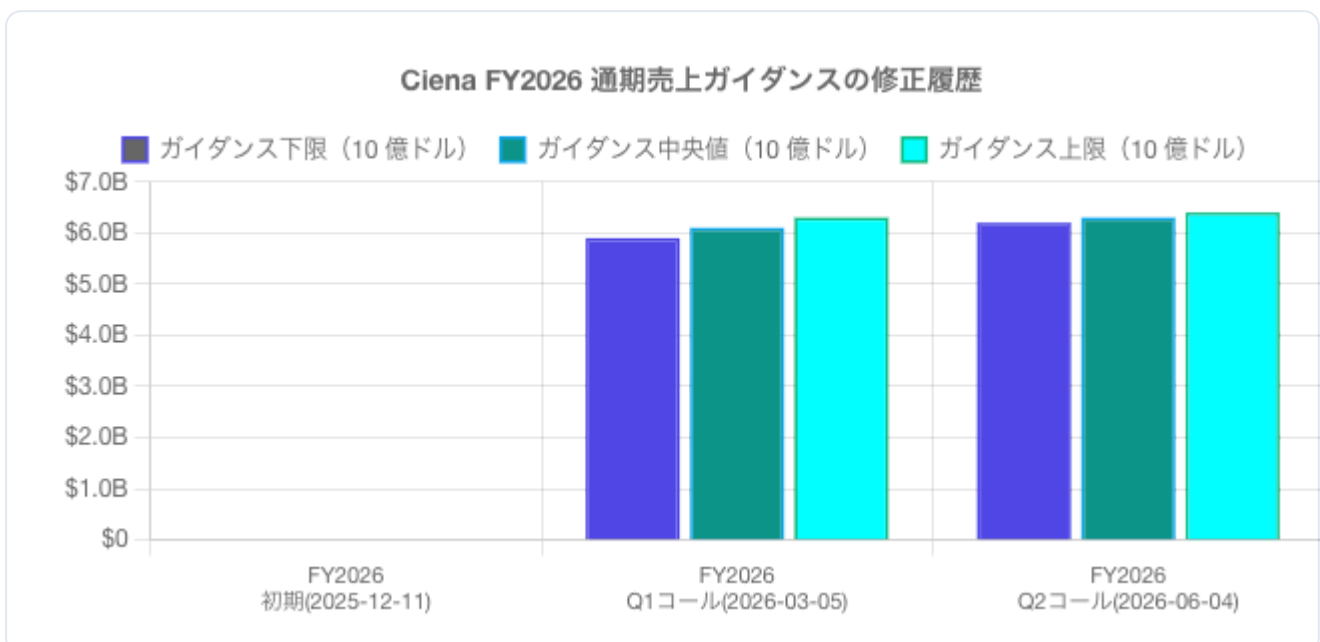
まず土台から確認します。FY2025 売上 47.70 億ドル (+18.8% YoY) **A**、FCF 6.65 億ドル **A**、自己資本比率 46.5% **A** と、すでに前期の時点で成長と財務体力を両立していました。そのうえで FY2026 第 2 四半期 (2026 年 5 月 2 日締め) は 売上 15.71 億ドル (+39.5% YoY) ・ 調整後 EPS 1.64 ドルの予想超過 **A** と一段の加速を見せています。

利益面の構造転換はさらに劇的です。FY2025 通期の GAAP 営業利益は 1.98 億ドル (営業利益率 4.1%) **A** だったのに対し、FY2026 第 2 四半期は単四半期で 2.38 億ドル (営業利益率 15.1%) **A** と、わずか半年強で通期を上回る水準に達しました。そのため、売上の伸びがそのまま利益レバレッジに変わるフェーズへ移行したと言えます。



## 2.2 ガイドンスの連続上方修正と「減速」の正体

業績見通しの推移も確認しましょう。第1四半期コール（2026年3月5日）で通期売上ガイダンスを59～63億ドル（中央値+28%）へ上方修正 **A** した後、第2四半期コールで63億ドル±1億（中央値+32%）へ再修正 **A** しました。2四半期連続の上方修正で、控えめに約束して上回る傾向 **A** が確認できます（第3四半期ガイダンス売上16.25億ドル±5,000万・調整後粗利率45%±50bpも同時に提示 **A**）。



ただし、市場が注目したのは伸び率の変化です。第3四半期の売上ガイダンス16.25億ドル **A** は前年比+約30%に相当し、第2四半期実績の+39.5%からは明確に減速 **A** します。数字自体は十分強いのですが、9倍高を演じた株にとっては「加速の終わり」と読まれ、これが§0で見た急落の一因となりました。

## 2.3 需要の構造的性 — クラウド直販・バックログ・新技術採用

需要の中身は数字で裏付けられています。クラウド事業者向け直販の売上比率は 46%（前年 38%、+70% YoY）と 4 四半期連続で上昇 **A** しました。業界統計でも DCI（データセンター相互接続）向け WDM 機器は +40% YoY **B**、クラウド事業者の直接購入は +50% YoY **B** と、会社の実績と整合します。

加えて、2 四半期連続で過去最高のバックログ（受注残）を更新し、経営陣は 2026~2027 年の複数年可視性に言及 **A** しています。業界初のハイパースケーラー向け multi-rail 案件の受注 **A** や WaveLogic 6 Extreme の採用顧客が累計 110 社に到達 **A** と、次世代製品への移行も順調です。

## 2.4 粗利率 45% の攻防 — 上振れ余地と供給の代償

一方で、次の株価ドライバーは粗利率です。FY2025 通期の GAAP 粗利率 42.0% **A** から第 2 四半期は 44.0%（調整後 44.9%、前年比 +3.8pt）**A** へ急改善しました。通期ガイダンスも第 1 四半期時点の 43.5~44.5% から上方シフト **A** し、現在は 44.5~45% **A** です。しかしながら、実績 44.9% はすでにレンジ上限の目前にあり、市場は「これ以上の改善余地が小さい」と解釈しました。

改善の源泉は需給の逼迫です。経営陣は「需要が供給を上回り、リードタイムが長期化している」と明言 **A** しており（決算説明資料にも明記 **A**）、これは値引きせずに売れる価格決定力の裏返しです。ただし、その代償として在庫 8.26 億ドルとキャンセル不能の購買コミットメント 21 億ドル **A** を抱えており、仮に需要が急減すれば在庫評価損に転化します。攻めの在庫はアクセルにもブレーキにもなる、という点が本章の結論です。

### この章のまとめ

- 第 2 四半期売上 +39.5%・営業利益率 15.1% と、成長が利益レバレッジに転換する局面
- ガイダンスは 2 四半期連続上方修正だが、第 3 四半期は +30% 成長へ減速し「出尽くし」と解釈された
- クラウド直販比率 46%・過去最高バックログ・WaveLogic 6 採用 110 社が需要の構造的性を裏付け
- 粗利率 45% 上限の突破可否が次の焦点であり、§ 4 バリュエーションの EPS 前提に直結します

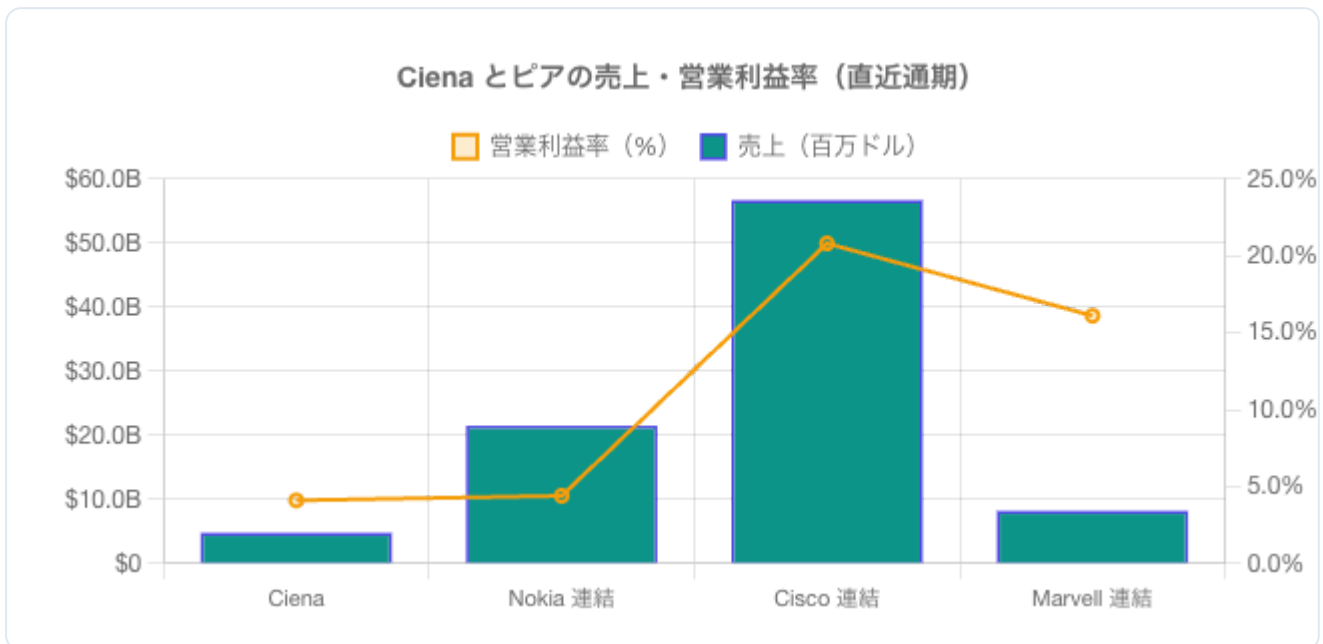
### 3. 業界・競合 — Nokia 統合と CPO 侵食、競争優位の防衛戦

#### この章で見えてくること

§ 2 で確認した需要の追い風が「Ciena だけのもの」ではない点を検証します。Nokia の Infinera 統合と半導体勢の CPO 攻勢という 2 つの脅威に対し、Ciena の防衛線がどこにあるかを掘り下げます。

#### 3.1 市場の全体像と Ciena の立ち位置

光トランスポート機器の世界市場は 2025 年に 160 億ドル <sup>B</sup> (+10% YoY <sup>B</sup>) でした。Ciena の通期ガイダンス +32% は市場全体の 3 倍速であり、シェアを奪いながら成長していることを意味します。ベンダー序列は Huawei が 1 位、Ciena が 2 位、Nokia が 3 位、ZTE が 4 位、Cisco が 5 位 <sup>B</sup> です。ただし 首位の Huawei は米国市場から規制で排除 <sup>B</sup> されているため、北米では事実上の住み分けが成立しています。Ciena 自身は 光トランスポート世界 2 位かつ DCI 世界 1 位 <sup>B</sup> (2025 年第 3 四半期の業界集計 <sup>A</sup>) で、成長の速いセグメントほど強いポジションです。



#### 3.2 短期の脅威 — Nokia が「同じ体格のライバル」になった

競争環境の最大の変化は、Nokia が 2025 年 2 月 28 日に Infinera の買収を完了 (総対価 24.96 億ユーロ) <sup>A</sup> したことです。これにより Nokia の光ネットワーク事業は FY2025 に 30.19 億ユーロ (前年 16.36 億ユーロからほぼ倍増) <sup>A</sup> となり、Ciena の光ネットワーク売上 32.46 億ドル <sup>A</sup> とほぼ同じ体格の直接競合が誕生しました。ボクシングで言え

ば、これまで一階級下だった相手が増量して同じリングに上がってきた状態です。Nokia は連結売上約 215 億ドル [A](#)、Cisco は連結売上 566.5 億ドル [A](#) と企業全体の規模では Ciena を大きく上回るため、調達力や価格競争力での圧力が警戒されます。

### 3.3 中期の脅威 — 半導体勢による「中抜き」リスク

より構造的な脅威は半導体側から来ます。短期は Nokia の規模、中期は Marvell や Broadcom が CPO・プラガブル光で Ciena のシステム価値を前方から侵食するリスク [A](#) が最大の論点です。Marvell は FY2026 売上 81.95 億ドル (+42%、データセンター向け +46%) [A](#) と急成長し、研究開発費の売上比率 25.3% は Ciena の 17.8% を上回ります。Ciena の 10-K 自身が CPO や near-package optics を注視すべき技術トレンドとして明記 [A](#) しており、報道でも Marvell CEO の「銅配線の限界は CPO だけが突破できる」発言 (digitimes 2026-06-02) [C](#) が構造論を補強しています。

これに対する Ciena の防衛線は 3 つあります。第 1 に 業界唯一の 1.6Tb/s 単一キャリア・コヒーレント光技術である WaveLogic 6 Extreme [A](#)、第 2 に Nubis Communications 買収 (2.705 億ドル) による CPO・AEC 技術の内製化 [A](#)、第 3 に DCI 首位の顧客基盤です。さらに中期では IPoDWDM 市場が 2030 年に 44 億ドル (年率 16% 成長) へ拡大する予測 [B](#) があり、プラガブル化の波は脅威であると同時に新市場でもあります。なお 10-K が挙げる主要競合は Nokia・Huawei・Cisco・HPE・ZTE と、新興勢力の Marvell・Credo・Broadcom [A](#) で (業界分析側でも同じ競合リストを確認 [A](#))、競争の主戦場が従来の通信機器ベンダーから半導体勢へ広がっている点を読み取れます。

#### この章のまとめ

- 市場 160 億ドル・+10% 成長に対し Ciena は 3 倍速の +32% ガイダンスでシェア拡大局面
- Nokia の Infinera 統合で光事業がほぼ同規模の競合が出現し、北米 DCI で価格圧力が増す見込み
- 中期は Marvell など半導体勢の CPO 攻勢が本丸であり、WaveLogic 6 と Nubis 内製化が防衛線
- 競争がマージンの天井を規定するため、§ 4 では「その天井をいくらで買うか」を検証します

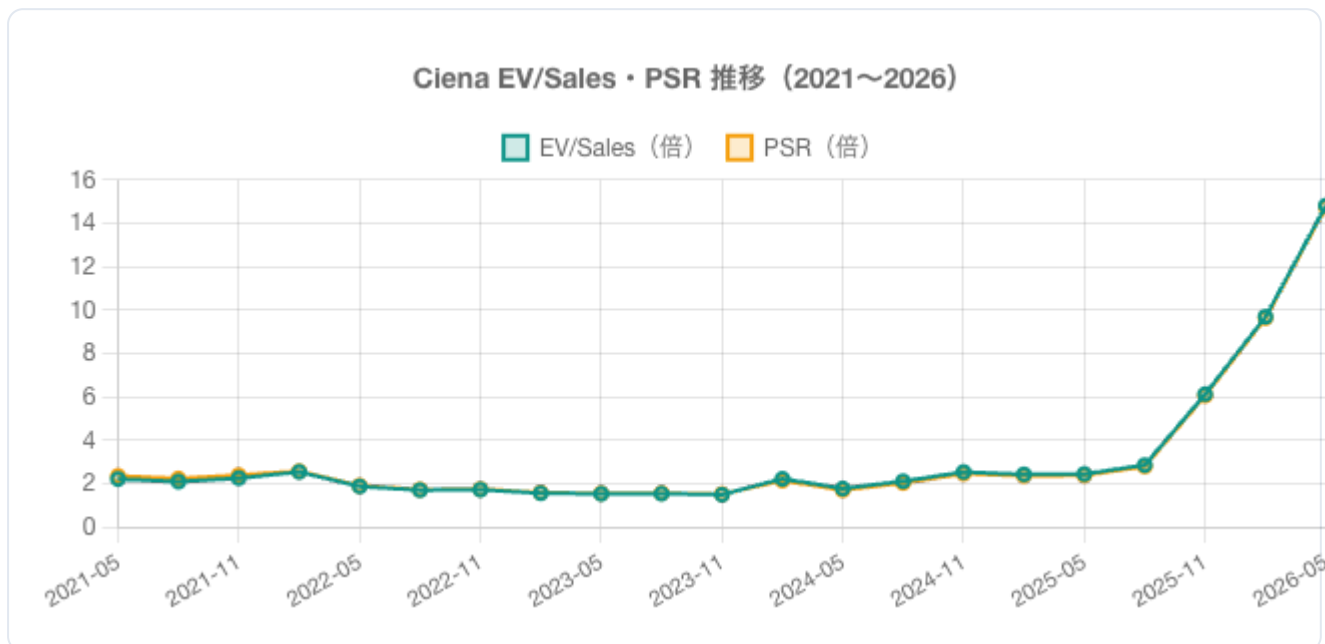
## 4. バリュエーション – 逆 DCF が示す織り込み過剰

### この章で見えてくること

§ 2 の強い業績と § 3 の競争環境を踏まえ、§ 0 結論の核心である論点「逆 DCF が示す織り込み過剰」を数値で検証します。成長期待をどこまで織り込んだ株価なのかを、複数のレンズで測ります。

### 4.1 マルチプルの現在地 – 急落後でもなお高い

まず現在地です。決算急落後でも PER 178.5 倍・PBR 27.8 倍・PSR 15.9 倍 **A** と、GAAP ベースの指標はピアの Cisco (実績 PER 約 20 倍) や Marvell (約 92.5 倍) を大きく上回ります。GAAP の利益が買収償却などで薄く出る事情を考慮し、市場が実際に使うフォワード基準でも予想 PER は約 64.5 倍です。長期推移を見ても、EV/Sales は 2021~2025 年の 1.5~2.5 倍レンジから 2025 年末以降に急騰しており、AI 相場での再評価がいかに急だったかが分かります。



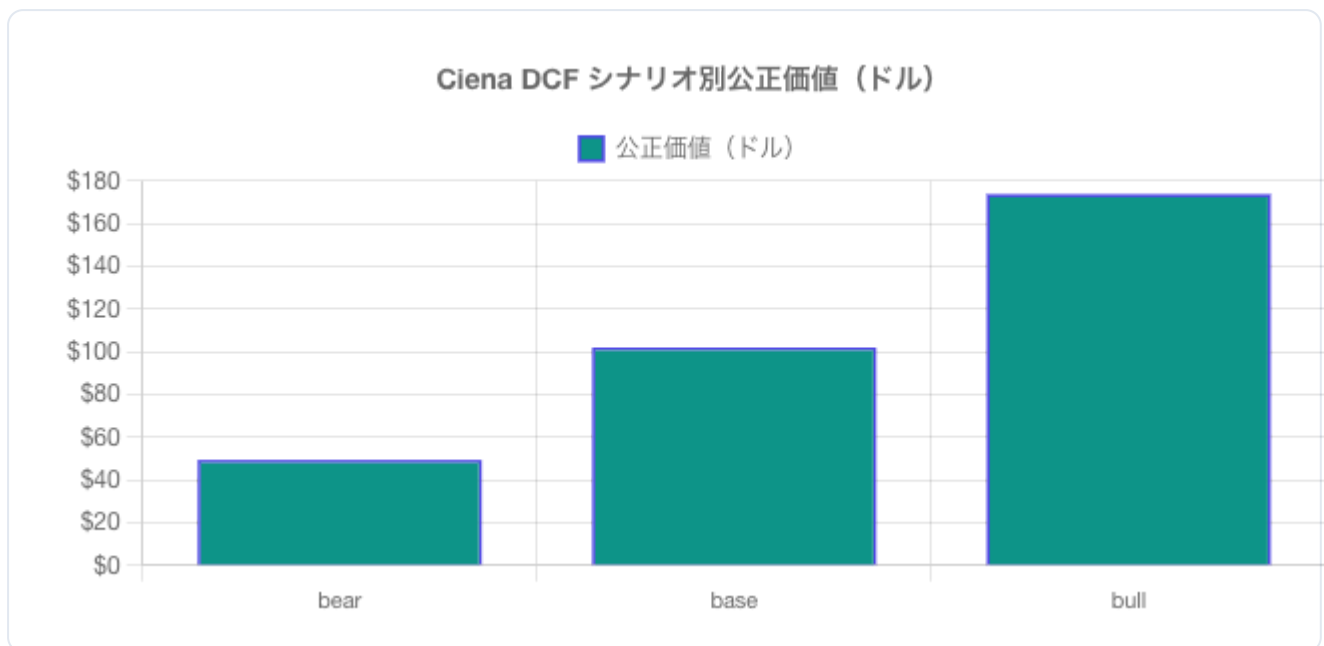
### 4.2 growth レンズ – 強気前提でも目標は現値の下

本レポートの主レンズは、AI インフラ銘柄として市場が使うフォワード利益マルチプルです。FY2027 調整後 EPS 8.30 ドルの想定に 目標フォワード P/E 55 倍 **A** を適用すると、基準シナリオの目標株価は 456.50 ドル (現値比 -14.8%) **A** となります。+20% 増収と利益率改善の継続という強気寄りの前提を置いてもお、目標が現値を下回る点が本銘柄の評価

の核心です。シナリオ別では 強気 646.00 ドル (68 倍 × EPS 9.50 ドル、現値比 +20.6%) **A**、弱気 258.40 ドル (38 倍 × EPS 6.80 ドル、現値比 -51.8%) **A** と、上下の振れ幅は下方向に大きく開いています。

### 4.3 value レンズ – DCF は「価格の正当化不能」を示す

規律のための検証レンズとして DCF (割引キャッシュフロー法) も確認します。積極的な FCF 成長を織り込んでも 基準シナリオの公正価値は 101.98 ドル (現値比 -81.0%) **A** にとどまり、強気でも 173.75 ドル **A**、弱気では 49.38 ドル **A** です。割引率と永久成長率を広く振った感応度表の全 25 セルが現値の 4 分の 1 から 6 分の 1 に収まるため、「キャッシュフローの現在価値では説明できない株価」という結論は前提の置き方に対して頑健です。



### 4.4 逆 DCF – 市場は何を信じているのか

では市場は何を織り込んでいるのでしょうか。現値 535.63 ドルから逆算すると、永久成長率 12.08% (割引率まで残り 1.42pt) **A** を要求している計算になります。別の言い方をすれば、10 年間 FCF を年率約 37% で伸ばし続ける想定に相当し、これは +32% 増収を 10 年間続けるイメージです。住宅ローンに例えるなら、「今後 10 年間ずっと年収が 3 割ずつ増える」前提で借入額を決めているようなものです。実現不可能とは言いませんが、サイクル業種の光通信機器でこの前提を信じ続けるのは分が悪いと考えられます。だからこそ、売上 +39.5% のビート決算でも報道の通り「期待に届かず急落」したのです。

#### この章のまとめ

- フォワード基準の目標株価 456.50 ドルは、強気寄り前提でも現値を 14.8% 下回る
- DCF は全感応度セルで現値の 1/4~1/6 となり、価格の正当化不能は前提に頑健
- 逆算すると市場は永久成長率 12% (10 年 FCF 年率約 37%) を織り込んでいる
- この高い前提を経営の実行力が支えられるかを、§ 5 マネジメントで確認します

## 5. マネジメント・ガバナンス – 25 年 CEO 体制の実行力と CFO 交代の過渡期

#### この章で見えてくること

§ 4 で見た「高い前提」を実行する経営体制の質を確認します。四半世紀続く CEO の実行力と、交代直後の CFO という新旧のコントラストが論点です。

### 5.1 経営の実行力 – 業界最長級の CEO 体制

CEO の Gary Smith 氏は 2001 年 5 月から約 25 年在任 **A** しており、通信機器業界でも最長級です。光通信のバブル崩壊、金融危機、Huawei との価格戦争を生き残って FY2025 に受注 78 億ドル・株主総利回り 196% を達成した実行力は、定量的にも裏付けられています。報酬設計も CEO 目標報酬の 82% が株式 **A** (FY2025 報酬総額は 1,853 万ドル **A**) と株主との利害一致度が高く、2026 年株主総会の報酬への賛成は 95.5% **A** と株主からの信頼も厚い状態です。

ガバナンス面も良好です。取締役 9 名中 8 名が独立 (89%) **A** で議長と CEO は分離されており、半導体サプライチェーンの専門家を含む構成はハードウェア企業として整合的と言えます。

### 5.2 留意点 – 全指標が「目標超過」の意味と CFO 交代

ただし、手放しでは評価できません。FY2025 は 現金賞与が目標比 170% **A**、業績連動株式 (PSU) が 187% **A**、相対 TSR 連動株式 (MSU) は上限の 200% **A** と全指標が目標を大幅超過しました。これは好業績の証左である一方、AI 需要の急増局面では目標自体が事

後的に保守的だったことを意味し、インセンティブの規律としては緩みのリスクでもありません。

さらに、CFOは2025年8月1日にMarc Graff氏へ交代 [A](#) したばかりで、資本配分の手腕は未検証です。役員・取締役全体の実保有は0.58% [A](#)（CEO 0.09%）と絶対水準は低く、保有ガイドラインで利害一致を補完する設計です。資本配分の現在地としては10億ドルの自社株買いプログラムに残枠5.067億ドル [A](#) がありますが、第2四半期の平均取得単価371.05ドルが示す通り、高値圏では買付が機械的に減速します。つまり、急落時の下支え効果は期待できるものの、無条件のセーフティネットではありません。

#### この章のまとめ

- CEO 25年体制の実行力と株式82%の報酬設計は、長期の利害一致として高評価
- 全業績指標の目標超過は好業績の裏返しだが、インセンティブ目標の保守化リスクも内包
- CFO交代直後で資本配分は未検証、自社株買い残枠5.067億ドルは条件付きの下支え
- 経営の外側で株価を揺らすマクロ要因を、§6で確認します

## 6. マクロ・ニュースフロー

#### この章で見えてくること

§2～§5の銘柄固有の論点に対し、外側から効いてくる金利・関税・AI投資サイクルの3つのマクロ経路を、論点「利上げバイアス×ベータ2.4－マルチプル収縮のマクロ逆風」として整理します。

### 6.1 金利－最大の感応度はバリュエーション経路

Cienaの直接的な金利感応度は変動金利+100bpで利息費用+450万ドル [A](#)、投資ポートフォリオへの影響-160万ドル [A](#) と軽微です。しかしながら本質はPER178.5倍×ベータ2.43のバリュエーション経路の経路 [A](#) にあります。現在の政策環境はFFレート目標3.50～3.75% [A](#)・米10年債利回り4.47%（2026-06-04） [A](#) で、FOMCの2026年4月29日議事要旨では過半数の参加者が利上げを選択肢として強調 [A](#) しました。しかも同じ議

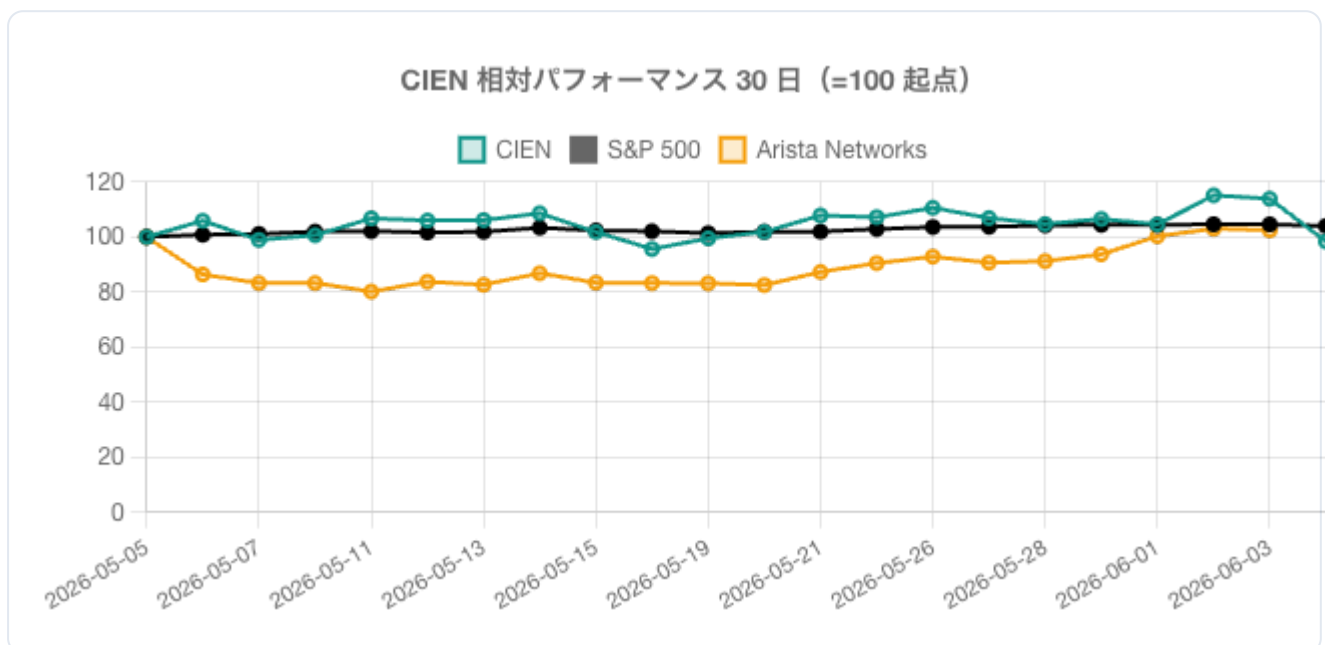
事要旨は「資産価格の高止まりと急落リスク」にも言及 [A](#) しており、高 PER・高ベータ銘柄にとって二重の警告です。報道側でも「FOMC 議事要旨でより多くの政策担当者が利上げに開かれている」(Reuters 2026-05-20) [B](#) と伝えられました。

## 6.2 関税・地政学 — 米国売上 72% × 海外製造の構造

通商面の構造は不利です。売上の約 72% が米国 [A](#) なのに対し、製造はカナダ・メキシコ・タイ・ベトナムなどの委託工場に分散しています。10-K はカナダ/メキシコ・鉄鋼/アルミ/銅・中国・タイ/ベトナム・半導体の 5 カテゴリーの関税エクスポージャーを列挙 [A](#) しており、まさに基準日当日に鉄鋼/アルミ/銅の関税調整が官報公表 (2026-06-04) [A](#) されました。半導体の安全保障調査 (Section 232) [A](#) も進行中です。重要なのは、現行ガイドランスが「通商政策に重大な変化なし」を前提にしている [A](#) 点で、関税の本格発動はそのまま粗利率前提の下振れ要因になります。部品面でも光部品・電子部品の一部が単一または限定的な調達先に依存 [A](#) し、米中摩擦による間接的なサプライチェーンリスク [A](#) を抱えます (売上の 76.5% が米州 [A](#))。為替は非ドル売上が 9.9% [A](#) に対し非ドル営業費用が 46.3% [A](#) と費用側に偏りますが、影響は相対的に小さい区分です。

## 6.3 AI 投資サイクル — 追い風の持続性と「当日の値動き」

需要側の追い風は明確です。光ネットワーク業界は拡大期の後半 [A](#) にあり、報道では「Moody's がハイパースケーラーの設備投資予測を 850 億ドル上方修正し 2027 年に 1 兆ドルへ」(Data Center Dynamics 2026-05-14) [C](#) と伝えられています。一方で、決算当日の市場の反応は冷静でした。「40% 増収で予想超過だが市場の高い期待に届かず急落」(Barron's 2026-06-04) [B](#) という報道の構図通り、決算日の出来高は 20 日平均の 3.57 倍 [A](#) に膨らみ、期待の高さと持ち手の入れ替わりの激しさを示しました。マクロの追い風は本物でも、それが既に株価に乗っている、というのが本章の結論です。



#### この章のまとめ

- 最大のマクロ感応度は金利で、利上げバイアス × ベータ 2.4 がマルチプル収縮を増幅する経路
- 関税は「重大変化なし」がガイダンス前提であり、本格発動は粗利率 45% 攻防の下振れ材料
- AI 設備投資の上方修正は追い風だが、出来高 3.57 倍の急落が示す通り期待は既に株価に織り込み済み
- これらのマクロ変数が短期の値動きをどう規定するかを、§ 7 のテクニカル分析で確認します

## 7. テクニカル・需給とスイング戦略

#### この章で見えてくること

§ 6 で確認したマクロ・ニュースフローを踏まえ、テクニカル面と需給面から短期の立ち回りを整理します。長期判断 (Watch) とは時間軸の異なる、数日～数週間のスイング観点です。

株価 5 年推移 (週次)



直近の株価は決算ギャップで大きく調整しましたが、トレンドの骨格は壊れていません。週足は上昇トレンドを維持しており、日足も移動平均の並び順自体は崩れていないためです。ただし、現値は25日移動平均を5%強下回る位置にあり、短期は明確な調整局面と言えます。RSI（買われすぎ・売られすぎを測る指標）は46.7と中立圏まで低下し、急落によって過熱感が一気に解消されました。例えるなら、長距離走の途中で急な坂を下ってペースが落ちたものの、コース自体はまだ上り基調、という状態です。

需給面では、機関投資家の保有はパッシブ大手中心で安定しており、敵対的な動きは見られません。自社株買いの残存も下支え材料です。一方で、決算日の出来高急増は持ち手の入れ替わりを示しており、しばらくは値動きの荒さが残るでしょう。経営トップの定例売却は事前計画に基づく自動執行であり、シグナル性は限定的と考えられます。

以下のスイングプランはあくまで**2026年6月4日時点の目安**であり、市況の変化により随時無効になります。ヒストリカルボラティリティが年率86.5%と極めて高い銘柄のため、ポジションサイズは通常の半分以下に抑えるのが整合的です。

### スイング戦略

#### 押し目買い

※2026-06-04 時点

|                       |          |                      |       |
|-----------------------|----------|----------------------|-------|
| エントリー帯                | 利確       | 損切り                  | 想定保有  |
| 499.01ドル～<br>566.73ドル | 637.51ドル | 466.15ドル<br>(-12.5%) | 1-3週間 |

リスクリワード  
1:1.6

セットアップ

決算ギャップ後の25MA下押し目 + 週足上昇トレンド継続

なお、プランの前提が崩れる条件も明確です。主要サポートを終値で割り込んだ場合はセットアップ自体が不成立となり、撤退が原則となります。また、想定保有期間の先にある次回決算（2026年9月上旬見込み）はイベントリスクであり、決算をまたぐ持ち越しは別途の判断が必要です。

#### この章のまとめ

- 週足上昇トレンドは健在で、決算ギャップは過熱解消を伴う調整（RSI 46.7 の中立圏）
- 需給はパッシブ保有と自社株買い残枠が下支え、ただし出来高急増後の荒い値動きには注意
- スイングは押し目買いの目線だが、サポート割れで不成立、決算持ち越しは原則回避
- § 8 では、これらの短期シグナルを長期シナリオの分岐条件と統合します

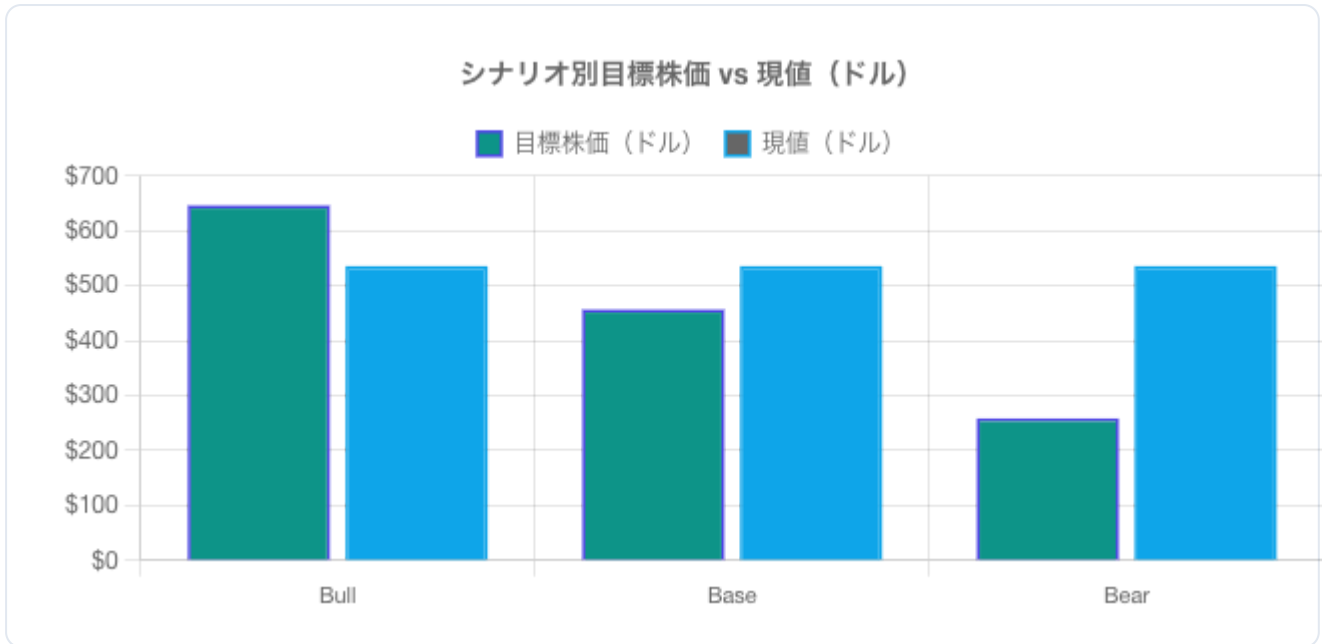
## 8. シナリオ・反証・モニタリング KPI

#### この章で見えてくること

§ 2～§ 7 で深掘りした論点群を強気・中立・弱気の 3 シナリオに織り込み、どの事実が出れば判定が変わるか（反証条件）と、何を追えば論点の進行を測れるか（モニタリング KPI）をまとめます。

### 8.1 シナリオ別の目標株価と期待値

3 シナリオの目標株価と現値の関係は次のチャートの通りです。確率は強気 25.5%・中立 50%・弱気 24.5% と置いています。



各論点がシナリオごとにどう効くかを整理します。

| 論点                   | 強気 (25.5%) | 中立 (50%) | 弱気 (24.5%) |
|----------------------|------------|----------|------------|
| AI クラウド DCI 需要の構造的拡大 | 増幅         | 持続       | 減衰         |
| 逆 DCF が示す織り込み過剰      | 減衰         | 持続       | 増幅         |
| 粗利率 45% 攻防           | 増幅         | 持続       | 不確実        |
| クラウド 2 社 34% への顧客集中  | 中立化        | 持続       | 増幅         |
| Nokia 統合と CPO 侵食     | 減衰         | 持続       | 増幅         |
| 利上げバイアス × ベータ 2.4    | 減衰         | 持続       | 増幅         |
| 25 年 CEO 体制と CFO 交代  | 持続         | 持続       | 不確実        |

確率加重の期待リターンは約 -14.8% とマイナスです。そのため、期待値の観点でも新規の長期エントリーを急ぐ局面ではないと言えます。

## 8.2 反証ボード – 判定を覆す事実セット

投資判断は「正しいか」ではなく「何が出たら間違いになるか」で管理します。注目すべき反証は以下の通りです。

| 事実   | 関連論点                                     | 出現確率 (%) | 影響度       |
|--|--|----------|-----------|
| ハイパースケーラー 2 社以上が四半期決算で capex ガイダンスを削減 (クラウド DCI 発注の先行指標) | AI クラウド DCI 需要の構造的拡大、クラウド 2 社 34% への顧客集中 | 15       | Bear 帯へ移行 |

| 事実  | 関連論点  | 出現確率 (%) | 影響度        |
|---|---|----------|------------|
| FY2026 Q3 決算で調整後粗利率 45% 超 + 通期ガイダンス 3 回目の上方修正 (強気側反証 → Buy 再評価) | 逆 DCF が示す織り込み過剰、粗利率 45% 攻防 — 価格決定力と供給制約の綱引き                   | 30       | EPS 前提切り上げ |
| FOMC が 2026 年内に利上げを実施 (議事要旨の引き締めバイアスが現実化)                       | 利上げバイアス × ベータ 2.4 — マルチプル収縮のマクロ逆風、逆 DCF が示す織り込み過剰             | 25       | マルチプル圧縮    |
| 四半期報告でクラウド大口 1 社の売上比率が前期比 5pt 超低下 (発注サイクルの谷)                    | AI クラウド DCI 需要の構造的拡大、クラウド 2 社 34% への顧客集中                      | 10       | 成長前提の毀損    |
| 関税適用除外の撤回・拡大適用で粗利率ガイダンスが 44% 割れへ下方修正                            | 粗利率 45% 攻防 — 価格決定力と供給制約の綱引き、利上げバイアス × ベータ 2.4 — マルチプル収縮のマクロ逆風 | 15       | マージン前提の毀損  |

投資判断を覆す事実セット

特に重要なのは強気側の反証です。第 3 四半期決算で調整後粗利率が 45% を超え、かつ通期ガイダンスが 3 回目の上方修正となれば、EPS 前提が切り上がり Watch から Buy 方向への再評価が必要になります。出現確率は 30% と見ており、決して無視できない分岐です。

### 8.3 モニタリング KPI

論点の進行・後退を測る計器盤は以下に集約します。

|   |                                |   |
|---|--------------------------------|---|
| クラウド直販比率<br><b>46%</b> <span style="color: green;">A</span> | 通期調整後粗利率ガイダンス<br><b>44.75%</b> | 米 10 年債利回り<br><b>4.47%</b> <span style="color: green;">A</span> |
| 主要サポート<br><b>499 USD</b>                                    | 予想 PER<br><b>64.5倍</b>         | 需給スコア<br><b>66 index</b>  |

クラウド直販比率が 38% を割れば需要論点の警告、米 10 年債利回りが 5% を超えればマルチプル収縮の進行、主要サポートの終値割れはテクニカルの不成立シグナルです。逆に粗利率ガイダンスの 45% 超えは強気側への進行を意味します。

#### この章のまとめ

- 確率加重期待リターンは約 -14.8% で、期待値はエントリーを支持しない
- 最大の分岐は「粗利率 45% 超 + 3 回目上方修正」（確率 30%）で、出現すれば Buy 再評価
- KPI はクラウド直販比率・粗利率ガイダンス・10 年金利・主要サポートの 4 点を定点観測
- § 9 では、これらの分岐を具体的な日付とイベントに落とし込みます

## 9. リスク・カタリスト

#### この章で見えてくること

§ 8 の反証条件と KPI を、短期（30～90 日）のカタレンダーと中長期の構造リスクに分けて時系列で示します。論点「クラウド 2 社 34% への顧客集中」もここで詳述します。

### 9.1 短期カタリスト（30～90 日）

2026-06-04

**FY2026 Q2 決算 + 通期上方修正（売上 15.71 億ドル / +39.5%、通期 63 億ドル±1 億）**

好決算・上方修正だが株価 -13.66% 急落。高 PER 剥落・期待先行の利益確定売り（短期リプライシング論点）

2026-06-15

**競合決算（Broadcom 等 AI ネットワーキング）のセクター波及**

AI capex 継続なら DCI 需要観を補強、ピークアウト示唆ならセクター全体のマルチプル圧縮

2026-08-01

**FY2026 Q3 四半期末（売上ガイダンス 16.25 億ドル±0.5 億 / 調整後粗利率 45% 前後）**

過去2四半期はガイダンス上限超え着地。上限超えなら信認回復、マージン未達なら一段安

2026-09-03

## FY2026 Q3 決算発表（次回決算、※IR カレンダー未確認の推定日）

本件最大の次回カタリスト。粗利率 45% 超の突破可否・供給リードタイム方向・通期再上方修正余地が焦点

各イベントの Ciena への影響経路を整理します。

- **2026-06-04 決算ギャップの消化:** 急落直後の需給リバランスが最初の関門です。§ 7 のスイング水準が攻防ラインとなります。
- **2026 年 6 月中旬の競合決算:** Broadcom など AI ネットワーキング関連の決算が、AI 設備投資の持続性についてセクター全体の温度を決めます。
- **2026-09 上旬の第 3 四半期決算（推定）:** 本件最大の次回カタリストです。粗利率 45% 突破の可否と通期再上方修正の有無が § 8 の最大分岐（確率 30%）を直接判定します。

次回決算

### 2026-09-03(推定)

FY2026 第 3 四半期決算。IR カレンダー未確認のため四半期パターンからの推定日

FY2026 第 3 四半期決算 — 調整後粗利率 45% 突破の可否と通期ガイダンス  
2026-09 上旬 3 回目の上方修正の有無が、強気側の反証条件・出現確率 30% を直接判定します。

高

## 9.2 中長期の構造リスク

2026-10-31

### FY2026 通期ガイダンス 63 億ドル±1 億（中央値 +32%）の達成検証

AI/DCI 構造成長テーゼの検証。再上方修正で信認回復、未達なら高 PER 剥落加速

2027-01-31

### 顧客集中リスク（単一クラウド事業者 17.9%・AT&T 10.5%）の継続

10-K Item 1A 構造リスク。最低/保証購買のない book-to-revenue 依存で四半期売上が大きく振れる

2027-06-30

### 関税×海外製造 + CPO/ディスアグリゲーションによる中流価値侵食リスク

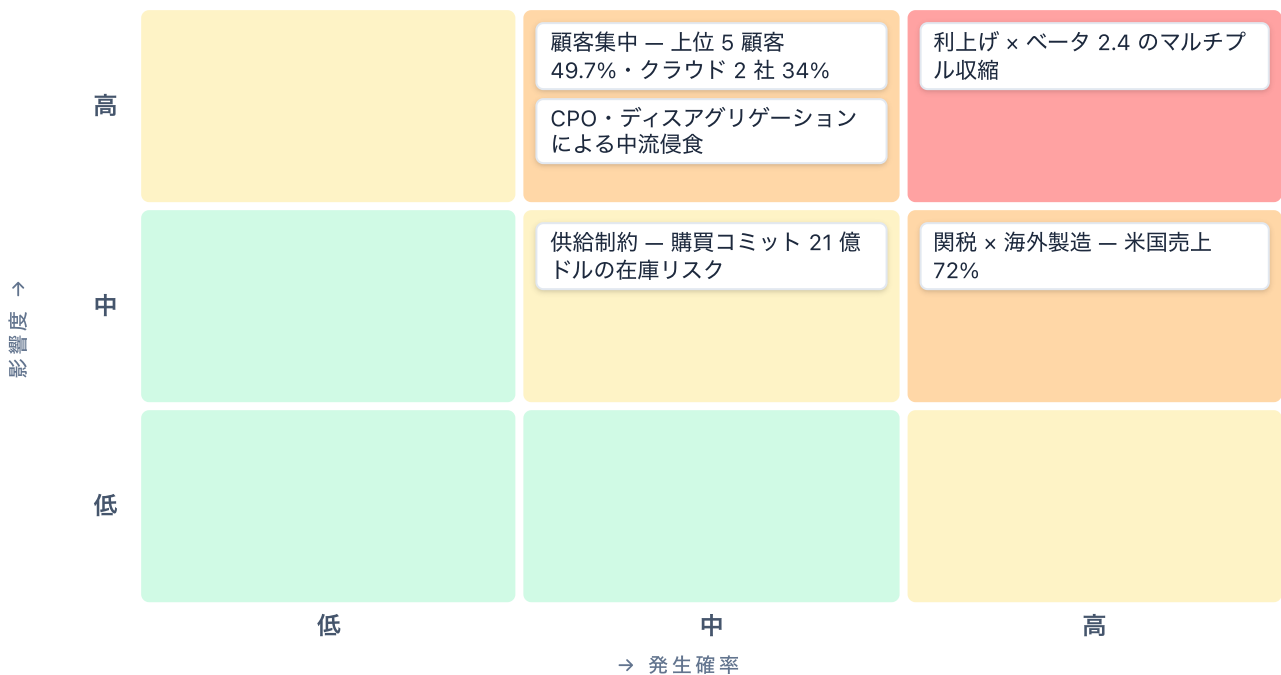
売上72%米国×Canada/Mexico/Thailand/Vietnam 製造の関税圧迫、pluggable/CPO への付加価値移行が長期粗利の分岐点

## pluggable coherent がルータ/スイッチ coherent 出荷の 45% 超へ (IPoDWDM 主流化)

技術ロードマップ先頭維持なら中流ポジション防衛、出遅れれば代替技術に侵食 (WaveLogic/Nubis 戦略の成否)

中長期リスクの影響経路と定量感は以下の通りです。

- 顧客集中:** 上位 5 顧客が売上の 49.7% **A** を占め、うち クラウド事業者 1 社が 8.516 億ドル (17.9%) **A**、AT&T が 10.5% です。最低購買保証のないバックログ依存 **A** のため、大口顧客の発注の谷がそのまま四半期売上を直撃します。第 2 四半期はクラウド 2 社で 34.0% とさらに集中が進みました。成長ドライバーと同一事実の裏面である点が、このリスクの厄介なところです。
- 関税 × 海外製造:** カナダ・メキシコ・タイ・ベトナム・米国の第三者委託製造 **A** と米国売上 72% の組み合わせは、§ 6 で見た通り関税発動時の粗利率下振れに直結します。
- CPO・ディスアグリゲーション:** § 3 で詳述した中流価値の侵食リスクです。顕在化は 2027 年以降ですが、織り込みは早めに始まる可能性があります。



### 強気シナリオ (確率 25.5%)

- 目標株価 646 ドル (フォワード P/E 68 倍 × EPS 9.50 ドル、現値比 +20.6%)
- AI クラウド DCI 需要の構造的拡大 — クラウド直販比率 46% ・ 2 四半期連続の過去最高バックログ
- 粗利率 45% 突破と通期ガイダンス 3 回目上方修正による EPS 前提の切り上げ余地

### 弱気シナリオ (確率 24.5%)

- 目標株価 258.40 ドル (マルチプル 38 倍へ圧縮、現値比 -51.8%)
- 株価は永久成長率 12% 織り込みの過剰期待 — ビート決算でも 13.66% 急落した脆弱性
- 利上げバイアスとベータ 2.4 によるマルチプル収縮の増幅
- クラウド 2 社で売上 34% の顧客集中 — 発注サイクルの谷が直撃するリスク

強気と弱気のどちらが優勢かと問われれば、現時点では「事実は強気側、価格は弱気側に分がある」という非対称な答えになります。事業の事実関係はほぼすべて強気材料ですが、その事実が要求する成長持続期間の長さが、価格の脆弱性として弱気材料に変換されているためです。

### この章のまとめ

- 短期の最大カタリストは 2026 年 9 月上旬の第 3 四半期決算 (粗利率 45% 攻防の判定)
- 中長期は顧客集中 (上位 5 社で約 50%) ・ 関税 ・ CPO 侵食の 3 つが構造リスク
- 事実は強気側 ・ 価格は弱気側という非対称が本銘柄の本質
- § 10 で投資目的別の適性と最終判断をまとめます

## 10. 投資判断

この章で見えてくること

§ 2～§ 9 の論点検証を投資目的別の適性に落とし込み、§ 0 で先出しした判定 (Watch) の根拠を最終確認します。

### 投資目的別の適性

| 目的              | 適性 | 保有期間 | 参考フェアバリュー        | ひとつこと  |
|-----------------|----|------|------------------|--|
| グロース <b>主目的</b> | △  | 1～3年 | \$456.50 (マルチプル) | AI クラウド DCI 需要の最大ベネフィシヤリーで事業は最高級のグロースだが、現値はフォワード P/E 軸のフェアバリュー 456.50 ドルを 17% 上回る。456 ドル近辺への調整があれば妙味ありに昇格する条件付き適性。 |
| インカム (配当)       | ×  | —    | —                | 無配で株主還元は自社株買いのみ。インカム目的の保有には全く適さない。   |
| バリュー            | ×  | —    | \$101.98 (DCF)   | DCF 公正価値 101.98 ドルは現値の約 5 分の 1。PER 178.5 倍・PBR 27.8 倍でバリュー投資の対象外。  |
| クオリティ・ディフェンシブ   | ×  | —    | —                | ベータ 2.4・20 日ヒストリカルボラティリティ 86.5% の超ハイベータ銘柄でディフェンシブ特性は皆無。財務健全性は良好だが値動きの質が目的に合わない。                                    |

| 目的      | 適性 | 保有期間   | 参考フェアバリュー | ひとこと  |
|---------|----|--------|-----------|---|
| イベント・短期 | △  | 数ヶ月～1年 | —         | 決算ギャップ<br>-13.66% 直後のリバウンド/続落と 2026年9月上旬の次回決算がイベント。サポート 499 ドル維持が前提条件で、割れた場合は不成立。 |

投資目的ごとの適性を一言ずつ補足します。グロース目的は条件付きです。事業は最高級のグロースですが、エントリー価格がフォワード基準の参考フェアバリュー 456.50 ドルを 17% 上回っており、456 ドル近辺への調整があれば「妙味あり」に昇格します。想定保有は 1～3 年です。インカム目的には不向きです。無配であり、株主還元は自社株買いのみのためです。バリュー目的にも不向きです。DCF 公正価値が現値の約 5 分の 1 であり、割安要素はどのレンズでも見出せません。クオリティ・ディフェンシブ目的にも不向きです。財務健全性は良好ですが、ベータ 2.4・ヒストリカルボラティリティ 86.5% の値動きはディフェンシブの対極にあります。イベント・短期目的は条件付きです。決算ギャップ後のリバウンド狙いと 9 月決算前のポジション調整が題材ですが、サポート割れで不成立となる規律が前提です。

#### 強気 (Bull)

25.5%

**646.00 ドル**

+20.6%

粗利率 45% 突破 + 通期 3 回目上方修正 + AI 設備投資の上振れ継続

#### 中央 (Base)

50%

**456.50 ドル**

-14.8%

ガイダンス通りの着地でマルチプルは緩やかに圧縮

#### 弱気 (Bear)

24.5%

**258.40 ドル**

-51.8%

利上げ実施 + 設備投資減速でマルチプルが 38 倍へ圧縮

✖ 株価が 456 ドル近辺（フォワード基準の参考フェアバリュー）まで調整した

- ! 第3四半期決算で調整後粗利率 45% 超 + 通期 3 回目上方修正 (2026 年 9 月上旬に判定)
- ✓ クラウド直販比率が警告閾値 38% を上回って推移している (現状 46%)
- ✓ 米 10 年債利回りが 5% を下回っている (現状 4.47%)
- ✓ ハイパースケーラーの設備投資計画に削減の動きが出ていない

|                               |  |  |
|-------------------------------|--|--|
| 総合判定<br><b>Watch</b><br>確信度は中 | 目標株価<br><b>456.50 ドル</b><br>フォワード基準・現値比 -14.8% | 確率加重期待値<br><b>-14.8%</b><br>強気 25.5% / 中央 50% / 弱気 24.5% |
|-------------------------------|--|--|

想定時間軸  
**6~12 か月**  
 第3・第4四半期決算で再評価

**長期見通し**

**WATCH** 確信度 中

目標株価 想定保有  
**456.50** **6~12か月**

事業は最強局面だが株価は長期の高成長を先取りしており、456ドル近辺への調整を待つ局面

**スイング見通し**

**押し目買い** ※2026-06-04 時点

決算ギャップ後の25MA下押し目 + 週足上昇トレンド継続

あくまで主軸は長期判断の Watch であり、スイングプランは数日~数週間の短期の目安にすぎません。長期エントリーの条件は § 8 の反証ボードに集約されており、「456 ドル近辺への調整」または「粗利率 45% 超 + 3 回目上方修正による前提の切り上げ」のいずれかが点灯するまでは、観察リストでの定点観測が合理的です。

この章のまとめ

- 判定は Watch (確信度: 中)、グロース目的のみ条件付きで、456 ドル近辺が再評価ライン
- 強気反転の条件は粗利率 45% 超 + 通期 3 回目上方修正 (§ 8、確率 30%)
- スイングは独立判断で押し目買い目線、ただしサポート割れ・決算持ち越しは回避
- 用語の確認は § 11、出典は § 12 をご参照ください

## 11. 用語集

### 主要用語

|                                  |   |
|----------------------------------|---|
| <b>DCI(データセンター相互接続)</b>          | Data Center Interconnect。複数のデータセンター間を大容量の光回線で結ぶ用途・市場。AI の学習クラスタ拡大で最も成長が速い領域。        |
| <b>コヒーレント光</b>                   | 光の位相・振幅を使って1本の光ファイバーで大容量伝送を行う技術。Ciena の WaveLogic はその代表的な実装。                        |
| <b>WaveLogic</b>                 | Ciena が自社開発するコヒーレント光の信号処理チップ (DSP) ブランド。WaveLogic 6 Extreme は業界唯一の 1.6Tb/s 単一キャリア品。 |
| <b>CP0(co-packaged optics)</b>   | 光部品とスイッチ半導体を同一パッケージに統合する次世代技術。実用化すると従来の光伝送装置の役割の一部が半導体側へ移る。                         |
| <b>プラグブル(pluggable coherent)</b> | ルータやスイッチに直接差し込める小型のコヒーレント光モジュール。専用伝送装置を省略する「ディスアグリゲーション」を進める存在。                     |
| <b>バックログ(受注残)</b>                | 受注済みでまだ売上計上されていない注文の残高。将来売上の可視性を示すが、キャンセル条件次第で確実性は変わる。                              |
| <b>ハイパースケーラー</b>                 | 超大規模データセンターを運営するクラウド事業者の総称。AI 投資の主体であり、Ciena のクラウド直販売上の源泉。                          |
| <b>PER</b>                       | 株価収益率。株価を1株当たり純利益で割った倍率で、利益に対して株価が何年分かを示す。  |
| <b>フォワード P/E(予想 PER)</b>         | 株価を将来予想 EPS で割った倍率。成長企業の評価では実績 PER より重視される。   |
| <b>DCF(割引キャッシュフロー法)</b>          | 将来のフリーキャッシュフローを割引率で現在価値に換算して企業価値を求める手法。成長期待に依存しない規律の物差し。                            |
| <b>逆 DCF</b>                     | 現在の株価から逆算して「市場が織り込む成長率」を求める手法。織り込みの過大・過小を判定する物差しになる。                                |
| <b>ベータ</b>                       | 市場全体に対する株価の感応度。2.4 は市場が1%動くと約2.4%動く高感応度を意味する。                                       |
| <b>ATR(Average True Range)</b>   | 直近の値動きの平均的な振れ幅を示す指標。損切り幅の設定など、ボラティリティに応じた水準調整に使う。                                   |
| <b>RSI</b>                       | 相対力指数。70以上で買われすぎ、30以下で売られすぎの目安とされるテクニカル指標。  |

## 12. 参考資料

[Tier A Ciena 10-K FY2025 連結BS](#)

[Tier A Ciena 10-K FY2025 \(SEC XBRL\)](#)

[Tier A Ciena 10-Q FY2026Q2 連結BS](#)

[Tier A Ciena Corp FY2025 Form 10-K](#)

[Tier A Ciena DEF 14A 2026 Proxy Statement p.8-12 \(director bios\)](#)

[Tier A Ciena Form 8-K \(2026-03-31\) Item 5.07 annual meeting results](#)

[Tier A Ciena FY2026 Q2 Investor Presentation](#)

[Tier A Ciena press release: Ciena Unveils WaveLogic 6, Industry's First 1.6Tb/s Coherent Optic Solution](#)

[Tier A Ciena Q1 FY2026 決算プレスリリース Business Outlook \(8-K Ex99.1\)](#)

[Tier A Ciena Q2 FY2026 決算プレスリリース Financial Highlights\(8-K Ex99.1\)](#)

[Tier A Ciena Q2 FY2026 決算説明会プレゼン p4/p11](#)

[Tier A Ciena Q4 FY2025 Earnings Presentation \(SEC 8-K Exhibit 99.2\)](#)

[Tier A Cisco 10-K \(Acacia 連結・Q3 FY2026 10-Q 訴訟注記で Acacia 言及\)](#)

[Tier A Cisco FY2025 Form 10-K \(SEC XBRL OperatingIncomeLoss \\$11,760M\)](#)

[Tier A Cisco FY2025 Form 10-K \(損益計算書 gross margin\)](#)

[Tier A Federal Register 2025-06591: Notice of Request for Public Comments on Section 232 National Security Investigation of Imports of Semiconductors and Semiconductor Manufacturing Equipment](#)

[Tier A Federal Register 2026-11314: Further Adjusting the Tariff Regimes for Imports of Aluminum, Steel, and Copper Into the United States](#)

[Tier A Federal Reserve FOMC Minutes, April 28-29 2026 meeting \(inflation discussion\)](#)

[Tier A Federal Reserve FOMC Statement, April 29 2026 \(target range maintained at 3-1/2 to 3-3/4 percent\)](#)

[Tier A Marvell FY2026 Form 10-K \(SEC XBRL GrossProfit\)](#)

[Tier A Marvell Q1 FY2027 Form 10-Q \(2026-05-02 期 損益計算書\)](#)

[Tier A Nokia Corporation SEC Form 6-K \(Feb 28, 2025\) - Infinera acquisition close](#)

[Tier A Nokia FY2025 Form 20-F \(R68 取得注記: Infinera 総対価 EUR 2,496M、のれん 833M\)](#)

[Tier A SEC EDGAR Ciena 8-K提出履歴 \(過去四半期の決算タイミング\)](#)

[Tier A SEC EDGAR Form 4 \(Gary B. Smith、accession 0001032553-26-000023\)](#)

[Tier A SEC EDGAR Schedule 13G/A \(BlackRock, Inc., accession 0002012383-26-001485\)](#)

[Tier A SEC EDGAR submissions \(CIK0000858877\)](#)

- [Tier A SEC EDGAR submissions \(CIK0000924613\) ↗](#)
- [Tier A SEC EDGAR submissions \(CIK0001835632\) ↗](#)
- [Tier A U.S. Department of the Treasury Daily Treasury Par Yield Curve Rates \(2026-06-04\) ↗](#)
- [Tier A Yahoo Finance CIEN/^GSPC 1y daily OHLC ↗](#) [Tier B Barron's ↗](#) [Tier B Barron's ↗](#)
- [Tier B BIS press release: Commerce Further Restricts China's AI and Advanced Computing Capabilities ↗](#)
- [Tier B CNBC ↗](#)
- [Tier B Dell'Oro Group press release: I PoD WDM Systems Market Forecast to Reach \\$4.4 Billion by 2030 ↗](#)
- [Tier B Dell'Oro Group press release: Large Scale AI Clusters to Fuel More Growth in Coherent Optical Transceiver Shipments ↗](#)
- [Tier B Dell'Oro Group 公開プレスリリース + Ciena Q4 FY2025 決算資料引用 \(Dell'Oro 3Q25、industry.md §7 と同一\) ↗](#)
- [Tier B FCC Secure and Trusted Communications Networks Reimbursement Program ↗](#)
- [Tier B Financial Times ↗](#) [Tier B Investor's Business Daily ↗](#)
- [Tier B Investor's Business Daily ↗](#) [Tier B Morningstar ↗](#) [Tier B Reuters ↗](#)
- [Tier B Reuters ↗](#) [Tier B Reuters ↗](#) [Tier B Reuters ↗](#)
- [Tier B Stooq 株価 \(CSCO.US 2026-06-04 終値 \\$130\) + Cisco 10-K 売上・dei 株式数 ↗](#)
- [Tier B Stooq 株価 \(MRVL.US 2026-06-04 終値 \\$316.43\) + Marvell 10-K 売上・dei 株式数 ↗](#)
- [Tier B Stooq 株価 \(NOK.US 2026-06-04 終値\) + Nokia 20-F 売上・dei 株式数 ↗](#)
- [Tier B The Wall Street Journal ↗](#)
- [Tier B 米10年国債利回り FRED DGS10 \(2026-06-03、4.49%、CAPM rf\) ↗](#)
- [Tier C Data Center Dynamics ↗](#) [Tier C digitimes ↗](#) [Tier C Proactive financial news ↗](#)
- [Tier C The Motley Fool ↗](#) [Tier C The Motley Fool ↗](#) [Tier C The Motley Fool ↗](#)
- [Tier C Tom's Hardware ↗](#)

本レポートは、特定の有価証券・金融商品の売買を勧誘・推奨することを目的としたものではなく、執筆者が個人的に整理した投資調査メモを共有するものです。記載内容は作成時点で入手可能な公開情報に基づいていますが、情報の正確性・完全性・適時性について保証するものではありません。

投資判断はすべて読者ご自身の責任において行ってください。本レポートの利用により生じたいかなる損害についても、執筆者は一切の責任を負いません。為替変動・流動性低下・規制変更・地政学的事象などにより、想定外のリスクが顕在化する可能性があります。

記載される目標株価・損切ライン・タイムホライズン等は、公開時点での執筆者の見解であり、将来の運用成果を保証するものではありません。過去のパフォーマンスは将来のリターンを示唆するものではありません。